

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800620		
法人名	株式会社ニッケ・ケアサービス		
事業所名	ニッケ てとて市川		
所在地	千葉県市川北方1-3-7		
自己評価作成日	令和4年7月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令4年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1日1日を入居者が楽しく過ごせるそして、職員も一緒に楽しめる環境を目指している。その上で主役は入居者様で「人」として嫌な事はしないをルールとする。

可能な限り外へ出ようをキーワードとして、外出時間を構築する為に、食事を一部簡素化した。

てとて市川を最後の住み家となる為に、看取りへの対応を行う、その為に機械浴などの設備もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ニッケてとて市川」は住宅地の中にあり、地域に根差した施設運営を目指している。また、小規模保育園が併設されており、世代間交流が可能な環境となっている。現在地域との交流や地域行事等の参加については、コロナ禍の為見合わせているが、近隣住民とは散歩時等の挨拶を通して良好な関係を築いている。1日1回外出することを目標として日頃から散歩・買物・ドライブ等の外出を支援していると共に、施設内でのレクリエーションや行事等の充実を図っており、入居者の心身の活性化に努めている。家族に対しては、定期的に入居者の様子を掲載した報告書を写真入りで発行し、施設での生活や活動状況を伝えていると共に、「てとて市川だより」を発行しており、家族との信頼関係を維持している。医療面については、医療機関への受診支援や住診医、訪問歯科、訪問看護、訪問マッサージとの連携により、適切な医療が受けられる体制を構築し、入居者及び家族の安心に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人として、何らかの形で地域ナンバー1を目標としているが、令和2年からの施設においては、知名度はまだ低い。まずは職員と入居者様が毎日を楽しく生活できることに重点をおいている。	「1日1回外出する」「気付きを大切にする」「チームケアで取り組む」を理念として掲げると共に、施設内に掲示し、職員及び家族等へ周知している。また、毎月実施しているフロア会議で共有化を図ると共に、新入職員に対する新人研修を通して、理念に基づいたサービスの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より新型コロナ渦において、地域への参加などは不十分ではある。	現在コロナ禍の為、地域との交流行事等は行われていないが、近隣住民とは散歩時の挨拶等通して良好な関係を築くことに努めている。同法人の保育園が併設されており、ハロウィンにお菓子を持参する等の世代間交流を行っており、生活の活性化に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	周辺地域ではないが、認知症指導者が在籍しており、県への委託等を受け、認知症実践者研修などの活動も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦において、参加型の運営推進会議は開催できておらず、基本的には文章の配布のみではあるが、法人としてネットワーク(zoom)の活用を検討中	市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・町内会会長・利用者・家族・施設職員等を構成員として、年6回、運営推進会議を開催している。会議では施設の活動報告や入居者の介護度・看取り支援・ヒヤリハット等の状況報告、地域情報の提供等を行っている。現在コロナ禍の為、会議は構成員と書面による意見交換を行い、議事録を配布する形で実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	加算や運営については、必要に応じて電話等で相談が可能。また、可能な限り申請等は直接出向くようにしている。	日頃から市に対して、業務上の相談・報告を行う等、連携を図っている。また、市主催の認知症研修等にも参加しており、専門性や施設運営の向上を図っている。	

【千葉県】ニッケ てとて市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時及びリスクマネジメント委員等により身体拘束の不要性を説明しているが、声かけや夜間対応においては課題があると思う。	身体拘束排除における指針やマニュアルを整備している。また、千葉県の身体拘束排除研修に参加していると共に、内部研修を実施しており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催しており、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	県主催の虐待研修等には可能な限り参加すると共に、職員においては、定期的な面談やストレスチェック実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう努めている	法人及び外部研修等を活用し制度への理解を務めているが、コロナ渦において参加を検討している部分はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お問い合わせ時より窓口は管理者とし、リーフレット等配布し適切な対応をしていると考える。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時に家族様よりご意見をいただくようにしており、法人本社からの定期的な視察等意見反映に努めている。	家族の面会時や電話連絡・運営推進会議を通して、意見や要望を確認している。また、意見箱を設置しており、入居者及び家族の要望等を確認している。挙げた意見・要望においては、会議や申し送りで周知・検討を図り、適切な対応に努めている。毎月報告書を発行しており、写真入りで施設での生活や活動状況を伝えていると共に、「てとて市川だより」を3か月に1回発行する等、信頼関係構築に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱の設置を行うと共に、会議での現場スタッフの意見を把握している。	毎月フロア会議を開催しており、職員の意見・要望の確認や入居者のカンファレンスを行っている。また、毎月フロアリーダー会議を開催しており、各ユニットのリーダーと管理者で運営に関する検討を行っている。年間計画に基づいた研修を実施しており、適切な人材育成にも取り組んでいる。その他、柔軟な希望休の導入や夜勤専門職員の配置により、働き易い環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人を通じて、キャリアアップができる仕組みが構築されていると考える		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修への参加は促しているが、人員不足にて不十分な部分はある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関東エリアにおいて、通所介護や有料老人ホーム、居宅介護支援事業所があるので、意見交換等は積極的であると考える。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりアセスメントを行い、必要であれば入居前の介護サービス事業所への聞き取りも実施し、家族様や本人との会話を積極的に取りれている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時等にGHのメリット・デメリットを明確にお伝えし、入居後もご家族様の協力の必要性をご説明しております。		

【千葉県】ニッケ てとて市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時等にGH以外を薦めることやGHに適さない場合などもはっきりとご説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHとして職員は脇役としており、入居者様同士が良好な関係を保てるように職員は意識的に仲介している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時にGH入居してからも家族様参加型のGHであることをお伝えし、ご理解とご協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	完全持ち込み式及び壁等にもポスター等貼り付けOK出している。また、可能な限り散歩(外出)などを行って地域としての関係をもっている。	家族との面会や外出・外泊が可能となっており、家族との関係継続を支援している。また、地域での散歩やドライブ等を通して、馴染みの場所との関係も大切にしている。その他、3か月に1回、地域の訪問美容を活用している。現在、コロナ禍の為、地域との交流や地域行事の参加は見合わせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症であっても好き嫌いなどは無くならないと考えており、プライベートな空間と相談しない空間を作っていると思う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年1年間退去された方は全員お看取りをさせていただいた方のみでご逝去後数か月は事務的ではあるが、定期的連絡を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントにて把握を行いながら、本人様、家族様からも情報収集をしている。	入所前に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認すると共に、他事業所や医療機関から情報を収集しており、詳細な情報把握に努めている。また、日頃から入居者とのコミュニケーションや家族との相談を通して個々の意向や思いを把握しており、本人本位のサービス提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用が不十分で情報収集が課題		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の活用が不十分で情報収集が課題		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様に担当職員を配置し、計画書作成時等は情報収集を行う、計画等に反映している。	本人・家族の意向を確認した上で、検討会議を行い、介護計画を作成している。定期的にモニタリングや介護計画の見直しを行っていると共に、必要に応じた介護計画の見直しも行っており、現状に即した介護計画に基づく支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様に担当職員を配置し、計画書作成時等は情報収集を行う、計画等に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだまだ不十分な部分がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ不十分な部分がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様と相談の上、往診医の選定が可能にいはりクリニックとさくらライフクリニック市川を配置している。	家族の協力や職員の同行により、希望する医療機関の受診を支援している。また、定期的に協力病院の医師による内科と精神科の往診が実施されていると共に、訪問看護・訪問歯科が実施されており、適切な医療支援が行われている。緊急時や急変時においては、協力病院の医師との連携により、迅速な対応に努めており、入居者や家族の安心に繋げている。その他、必要に応じて柔道整復師による訪問マッサージも実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1名が育児休暇中、1名が退職となったために、訪問看護の導入予定		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時等必要な情報交換は行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設時より6名の方をお看取りを行なっているが毎回終末期ケアには課題がある。	重度化・終末期における施設の方針を明文化しており、入居者・家族の意向確認の上、同意を得ている。重度化・終末期においては、協力病院の医師と24時間連絡が取れる体制となっており、施設として出来る限りの支援を行っている。また、医療機関及び家族等との連携の下、開所時より、6名の看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療的相談連絡体制は構築できているが、職員の不安はまだだと考え、訪問看護の導入を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防等との連携がコロナ渦にて不十分ではあるが、職員間で定期的な訓練実施はしている。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報装置等の消防設備を設置していると共に、災害時に備え、備蓄品も確保している。避難訓練は年2回実施しており、夜間想定訓練・消火器訓練・通報訓練等を通して、非常災害時に備えている。また、消防設備点検については、年4回実施している。市とは非常災害時の対応を共有し、協力体制を構築している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	てとて市川のルールとして、自分がされて嫌なことはしないとして日々の業務に当たっている。	プライバシー・接遇マニュアル等を整備すると共に、研修・会議を通じて職員の周知・理解促進を図っている。また、入居者一人ひとりに対する対応については、自分がされて嫌なことはしないことを主眼に適切な対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1名目標実現に近づいている。 目標：自宅に帰り、お父さんと一緒に過ごす。年内に目標達成予定＝GH退去予定		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	GH配置としては、夕方入浴は困難ではあるが、希望であれば毎日の入浴が可能である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類必要時に本人様と一緒に衣類を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事部分の時間を削減している部分はあるが、その部分を外出等に向けている。ただし、定期的と一緒に作る時などを設けている。	食事の準備は職員が行っているが、片付けについては、入居者の力量に応じて共同で行っている。食事については、入居者一人ひとりに合わせた形態で提供されており、食べやすさに配慮している。季節に応じた行事食の提供、流しそうめん等の実施、お寿司等のテイクアウトを通して、食の楽しみを支援している。	

【千葉県】ニッケ てとて市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体的に水分量が少ないことが大きな課題として継続してある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方は積極的にできない方は介助を行ない、必要に応じては、訪問歯科の導入を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを活用し、排尿・排便がでそうな時間帯把握をしている。	排泄状況を記録しながら入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にてトイレでの排泄を支援している。また、日頃から、食事・水分の配慮や食事前後の体操の実施により、便秘解消に努めている。必要に応じて医師と相談しながら、薬で排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に関しては、問題はないと判断しているが、水分量については、大きな課題		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕方、夜間入浴は職員配置上困難も必要性や希望に応じて毎日の入浴が可能である。最低入浴を週3回としている。	入浴は週3回実施していると共に、必要に応じて、清拭・シャワー浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。また、白癬のある入居者に対しては、足浴を実施し、症状の改善に努めている。機械浴槽も配置されており、身体状況に合わせた支援を行っている。その他にも、入浴剤を使用した入浴や菖蒲湯・柚子湯を実施しており、入浴の楽しみを支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やすや入眠対応は必要に応じて実施している。		

【千葉県】ニッケ てとて市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	見学時等に不要な内服削減を提案し実施していると思われる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあった役割を提供できるように日々の申し送りや会議等にて職員間で検討中		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	てとて市川のコンセプトであるが、積極的な外出は行っているが、コロナ禍にて課題が多い。	日頃から散歩や買物、お花見等を兼ねたドライブ等の外出を支援している。また、家族の協力の下、希望に応じた外出や外泊も行っている。現在コロナ禍の為、室内でのレクリエーションや敬老会や誕生会、流しそめん等の行事の充実化に努めており、入居者の気分転換や心身の活性化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に財布所持の確認を行い、現金やICカードなどを持つ方もいる。ただし定期的な確認作業もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯、タブレットなどの持ち込み可能、職員にて通話可能などにしている。時間帯等は必要に応じて説明している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては、完全持ち込みにて落ち着いた環境ではあるが、共同エリアには課題が残る。	施設はバリアフリー環境が整っており、入居者の安全面に配慮した設計となっている。共有スペースには、椅子・テーブル・ソファー等が設置されていると共に、季節感ある空間づくりがなされており、居心地よく自由にくつろげる環境整備がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室においては、完全持ち込みにて落ち着いた環境ではあるが、共同エリアには課題が残る。		

【千葉県】ニッケ てとて市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては、完全持ち込みにて落ち着いた環境ではあるが、共同エリアには課題が残る。	入居者・家族が馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く安心した生活ができるよう配慮している。また、エアコンによる適切な空調管理や鍵の設置によるプライバシーの確保等、入居者が安全かつ快適に過ごせるつくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全性の為に、洗濯場には入居者様が一人ではいけない状況ではあるので検討をしたい。		